

第一五師團司令部

第一五師團參謀長

佐 孝 俊 幸

年月日	概	要
四三 八 五	大阪港出帆	
八 八	上海上陸	
五 五	鐵道輸送に依り、南京到着以後、同地附近整備	
五 五	春季皖南作戦参加	
五 五	江南作戦参加	
五 五	太湖西方作戦参加	
三 三	皖浙作戦参加	
三 三	浙贛作戦参加中 戦死一	
三 三	中支那より転進、仏印西貢上陸、「シマム」国を経て	
三 三	緬甸に転進	
三 三	戦死二、戦傷死一	
三 三	戦病死二	
三 三	「イウ」号作戦参加中	
三 三	戦死二、戦傷死三、	
三 三	戦病死六六	
三 三	生死不明 一五	
三 三	消息不明 四	

16の外ビルマ

1886

年 月 日	概	要
昭 五 九 二 六	盤作戦参加中 戦死 三 病死 四二	消息不明 二
四 二 五	イイラワジレ河野の会戦中 戦死一九 病死 六	生死不明 三
五 三 三	克作戦参加中 戦死 三 病死 二	生死不明 一 生死不明 二
七 五 三	後期作戦参加中 戦死 一 病死 二	戦病死 九
八 三	緬甸より「シナム」国「カンナマナスリ」に転進、同地警備 戦傷死 一 病死 一三	公病死 三 消息不明 一
二 六 八 五	歴代師団長 陸軍中将 岩松義男 渡辺右門 能谷敬一 酒井直次 山内正文 柴田一 山本清衛	

1779

8881

1887

第一五師團第一野戰病院

細谷 郁

年月日	概	要
昭三 二	歩兵第三連隊に於て、編成 同日内地出發	
八三 九	中支那に在り各所に野戰病院を開設し、戰傷病者の収療送及び整備に任ず	
五 〇〇	江蘇作戦中溧陽清江附近に於て、 將校一、兵一、戰死	
五 九	浙贛作戦中浙江省広豊果英岸に於て、 下士官一、行方不明	
六 〇	南方転進の爲、上海（吳淞）出帆	
五 一	緬甸に転進	
五 三	転進並に次期作戦準備	
五 五	下士官兵 戰死 一一 戰病死 一〇〇（將校三、准士官一）	
五 三	下士官兵九六一 行方不明 約二三名（將校一、下士官兵二三）	
五 五	戰病により、入院後送せしめたるも、其の後不明なり、約六名敵手に入りたる 疑あり	

1889

アクトボム

年 月 日	略 記	至 自	至 自	至 自
一九一三		八 五	八 五 三	四 一 三
概	<p>本作戦間 戦死 下死留 兵 一</p> <p>戦病死 七九（持枝一、准士官一）</p> <p>下士官兵七七 行方不明 三 入院後送せるも不明なり</p> <p>「イラワジ」河畔の会戦、並に「メーカーラ」附近の会戦</p> <p>本作戦間戦死、下士官兵四 戦病死 下士官兵七</p> <p>充作戦</p> <p>本作戦間戦死、准士官兵 三 戦病死 下士官兵 二</p> <p>行方不明 一 入院後送後の状況不明なり</p> <p>後期充作戦</p> <p>本作戦間 戦死兵 一 戦病死 七（准士官一、下士官兵六）</p> <p>本間に於ける戦病死二（下士官兵）</p> <p>歴代部隊長名</p> <p>陸軍軍医大尉 中野 三郎</p> <p>陸軍軍医大尉 内田 兼義</p> <p>陸軍軍医大尉 中内 望雄</p> <p>陸軍軍医少佐 出口 鉄也</p> <p>陸軍軍医少佐 佐野 迎誠</p>	要		

1890

1890

タノガヒルマ

年月日	概要
	<p>部隊事情精通者</p> <p>陸軍軍医少佐 森田 伝一 所</p> <p>〃 細谷 郁</p> <p>京都府與謝郡筒川村字管野一〇番</p> <p>陸軍衛生中尉 須川源太郎</p> <p>京都市上京区西賀茂永室町四五番地の一</p> <p>陸軍衛生少尉 萩部 卯一郎</p> <p>部隊運名簿別紙の如し</p>

1891

1891

第一五師團通信隊略歴

福永哲郎

年月日	概	要
昭三 四 五	名古屋に於て、編成完結	
八 五	中支那派遣以來南京附近通信連絡	
八 六	浙贛作戦参加中蘭溪附近に於て兵一戦、死兵三戦病死 緬甸派遣の爲、泰国に転進	
九 六	緬甸に転進	
九 七	「ウ」 另作戦参加中印度国「アラサム」州「ソンカン」に於て、兵一戦死 四 「カン」 附近に於て、兵一戦死 一 「カン」 附近に於て、兵一戦死 三 「サタルマイナ」 附近に於て、兵一戦死 一 「マイガンポクピ」 東北方に於て、敵と離脱直前有線細補修中行方不明兵一 部隊追及中発熱し、「フミネ」 附近に於て、行方不明兵一 入院中脱出し、行方不明兵一 戦病死 下士官兵 七	
九 七	次期態勢移行のため作戦中「ソクパオ」に於て、兵一戦死「パンタ」に於て、 兵一戦死「トンヘ」に於て、下士官一 戦死「マオク」 附近に於て、夜間転進 中兵、行方不明一 「ロントマン」 附近に於て敵と離脱の際 行方不明兵三 「トンヘ」に於て、患者隊として、後送中行方不明 兵一戦病死、下士官兵五	

784~

1891

1892

1893の内ピルマ

年月日	概	要
明治 二十 六年	イ 盤 作 戦 中 「 イ シ エ ポ ー 」 に 於 て、 兵 一 戦 死	兵一戦死
同	「 ウ ン ト ウ 」 に 於 て、 兵 一 戦 傷 死 戦 病 死、 下 士 官 兵 三 五	戦病死、下士官兵三五
同	「 イ ラ ワ ジ 」 河 畔 並 に 「 メ ー ク テ ー ラ 」 会 戦 参 加 中	会戦参加中
同	「 カ バ イ ン 」 に 於 て、 戦 死 兵 二	戦死兵二
同	「 ミ ヤ ウ ン ガ ノ ワ 」 に 於 て、 戦 死 兵 一	戦死兵一
同	「 タ モ ク ソ ウ 」 附 近 に 於 て、 戦 死 下 士 官 兵 大 戦 病 死 兵 一	戦死下士官兵大戦病死兵一
同	「 ク 」 作 戦 参 加 中 「 モ ウ チ 」 道 一 三 七 哩 附 近 に 於 て、 下 士 官 六 名 戦 死	下士官六名戦死
同	「 カ マ マ ウ ン 」 北 方 附 近 戦 進 中 行 方 不 明 兵 一	行方不明兵一
同	後 期 の 克 作 戦 中 モ ウ チ 道 三 大 哩 内 近 に 於 て、 戦 死 下 士 官 一 戦 傷 死 兵 一	戦死下士官一 戦傷死兵一
同	「 シ ヤ ム 」 国、 駐 留 中 戦 病 死 兵 一	戦病死兵一
同	歴 代 部 隊 長 少 佐 塚 本 保 次	塚本保次
同	大 尉 丸 尾 正 春	丸尾正春
同	大 尉 印 南 嘉 之	印南嘉之
同	大 尉 大 尉 （ 少 佐 ） 田 村 四 郎	田村四郎
同	大 尉 橋 永 哲 郎	橋永哲郎
<p>部隊事情精通者 埼玉県北足立郡興野町大字下落合一六四五</p>		

~185~

1893

1893

第一五師團ノ二野戦病院

野戦病院長

弘 中 忠 男

年月日	概	要
昭西 三 三	歩兵中八連隊に於て、編成完結	
五 三	大阪港出帆	
六 八	漢口に上陸し、爾来中支に於て、作戦整備及び患者収療に任ず	
五 七 四	宜昌作戦	
五 二 二	予南作戦	
五 二 九	第一次錦江作戦中高安附近に於て、兵一名戦死	
五 三 三	第一次長沙作戦中湘陰附近に於て、兵二名戦死	
五 七 三	市沙街攻略戦	
五 二 五	第二次錦江作戦中高安附近に於て、兵一名戦死	
五 三 三	贛江作戦	
五 三 三	新贛作戦中貴嶺附近に於て、下士官一名戦死	
五 三 三	江北殲滅作戦	
五 三 三	編成改正	
五 三 三	編制完結	
五 三 三	上海出帆	

787~

1895

年月日	概	要
昭六 八 五	印度支那に転進、更に	
九 七	泰国に転進、露未、整備及び患者収療に任ず	
五 二	緬甸に転進	
五 三	「ウ」号作戦、九号作戦、次期態勢移行の爲の作戦中、	
五 三	印緬国境附近に於て、下士官兵六名戦死ニ一名	
五 三	戦病死一ニ名、行方不明「マングレー」	附近に於て、下士官兵六名戦死
五 三	准士官一名、下士官兵一四名、戦病死	
五 三	編制改正	
五 三	編成完結	
五 三	盤作戦中「マングレー」附近に於て、	
五 三	下士官一名戦死	
五 三	下士官兵九名戦病死	
五 三	「ミネゴン」附近に於て、兵三名戦病死	
五 三	「イラワジ」河畔「ムークテラ」	附近会戦中「マングレー」
五 三	下士官兵三名戦死	附近に於て、
五 三	下士官兵二名、戦病死二名、行方不明	
五 三	克作戦中「トンゲー」附近に於て、兵三名戦死	
五 三	後期克作戦中「ケマピユ」	附近に於て、下士官兵六名戦病死

1888

1896

1896

19の内ヒルマ

年月日	概	要
	歴代部隊長 陸軍軍医大尉 少佐 陸軍事情精通者 大阪市旭区大宮町七ノ七 陸軍衛生大尉 福島県相馬郡中村町袋町（今野操方） 陸軍軍医大尉 高知県土佐郡宇治村枝川二三一 陸軍衛生少尉 東京都小石川区八千代町二〇 陸軍衛生准尉	竹内十郎 中村瞭三 高橋新吾 弘中忠男 火口音次郎 鎌田孝 田上環 片岡八郎

282

8031

1897

ワ
リ
ト
シ
レ
マ

年	月	日	概
昭三	四	三	軍令陸甲ヲ二一号により編成下令
	四	三	編成完結
	八	五	中文派遣の爲、大阪港出発
	八	九	上海上陸
			作戰名
	二	〇	武漢攻陥戰参加
			戰死 下士官兵 八
	四	四	ヲ一次高淳作戦参加
			戰死 下士官兵 一
	九	九	ヲ二次
			高郵作戦参加
			戰死 下士官兵 二
	二	〇	ヲ一五師團討伐作戦参加
			戰死 下士官兵 五
	三	二	郎溪溧陽作戦参加

ヲ一五師團兵ヲ一五連隊長

千
葉
磨

要

~1922~

1898

年月日	概	要
二七 七八 五九	戦病死 中支警備 戦死	下士官五 計一八
四六	戦病死 下士官一〇 下士官二〇 計三〇	
四六	軍令陸甲ヲニニ〇号に依り編成改正着手	
四五	緬甸派遣のため上海へ吳淞港へ出帆	
七三	仏印回貢上陸	
二八 三〇	泰国国境道路構築作業に従事	
九三 三三	ガ号作戦並に次期態勢移行のための作戦参加	
二二	昭和一九年軍令陸軍甲一四〇号に依り、編成改正着手	
二七	編成完結	
一九 三三	警作戦参加	
四三	イイラワジ、河畔並にイキフテラ、附近の合戦に参加	
五三	危作戦参加	
七三	後期克作戦参加	
八八	泰国、バンボン、集結	
八八	終戦	

のり

492

0001

1900

年月日	概要
	<p>歴代部隊長</p> <p>陸軍大佐 細谷剛三郎</p> <p>陸軍大佐 沼野順治</p> <p>陸軍少佐 千葉磨</p> <p>部隊事情精通者</p> <p>福岡県筑上郡下城井村大字下深野二〇番地</p> <p>陸軍少佐 永野春美</p> <p>愛知県海部郡彌富町大字鯛浦字末新田五〇ノ一</p> <p>陸軍准尉 安藤秀雄</p> <p>愛知県中島郡平和村大字平池六一</p> <p>陸軍曹長 石黒一夫</p>

7736

1901

1901

歩兵第六〇連隊部隊

才一五師団歩兵第六十連隊長

鈴田正忠

年月日	概	要
三二	編成完結 京都	
三二	軍旗拝受	
八	中支那派遣の爲、大阪港出帆	
八二	上海上陸	
八二	安徽省寧國(宣城)附近に前進	
八二	主力は寧國附近の一部(才三大隊基幹)を以て、蕪湖附近の整備に任ず	
八二	連隊本部、通信中隊、歩兵砲中隊才一大隊(各部隊の主力)を以て高岳支隊	
八二	の編成に入らしめ武漢政略戦に参加す	
八二	前記兵力の移動に伴い配備を変更し、漢口鎮附近を才一線とし、蕪湖附近の警	
八二	備に任ず	
八二	才一次及び才二次漢口鎮附近の戦斗に参加す	
八二	高岳支隊の蕪湖帰還に伴い、当塗附近の警備を才一五師団歩兵団より継承す	
八二	寧國附近の戦斗を行う	
八二	才三大隊を以て高淳県城を攻めす	
八二	高淳県城を攻めし、才三大隊を以て、高淳及び水陽鎮附近の警備に任せしむ	

~194~

1902

年月日	概	要
昭和 一〇		カ一五師団秋季討伐に参加す
一一		カ一大隊を基幹とする混成石井大隊をカ一一六師団長の指揮に入らしめ、揚子
一二		江岸冬期作戦に参加せしむ
一三		前記混成大隊を牧野少佐と交代指揮せしめ、廬州作戦に参加す
一四		郎溪漂陽作戦に参加す
一五		新河庄附近の戦斗を行う
一六		カ一大隊をして、塗当地区の整備を歩兵カ六七連隊に移譲せしめ、蕪港地区の
一七		整備をカ一一六師団より継承す
一八		春季皖南作戦に参加し、南陵、青陽を攻略す
一九		連隊本部、歩兵砲中隊、通信中隊、カ二大隊の諸隊の主力を倉橋支隊の編成に
二〇		入らしめ、宣昌作戦に参加す
二一		宣城作戦に参加す
二二		倉橋支隊の編成解か、九嶷湖に帰還す
二三		江南作戦に参加す
二四		カ三大隊をして、淮南作戦に参加せしむ
二五		カ二大隊をして、浙東作戦に参加せしむ
二六		宣北作戦に参加す
二七		皖浙作戦に参加す

~195~

1903

昭和	年月日	概	要
七	九四	浙贛作戰に参加す	
六	一	カ一大隊をして、荻港地区の警備をカ一六師団に移譲し、巢県地区の警備を継承せしむ	
	二	カ一大隊をして、巢県地区の警備をカ一六師団に移譲し、涇水地区の警備を歩兵カ五一連隊より継承せしむ	
	四	軍令陸甲カニ二号に依り、編成改正完結	
	五	南方派遣の爲、蕪湖附近の警備を移譲し吳淞に集結す	
	七	吳淞に在りて、教育訓練を実施す	
	八	緬甸派遣の爲、吳淞港出帆	
	九	仏印西貢上陸、一時駐留	
	九	盤谷及び北泰「チエンマイ」に集結	
	二	主力は、教育訓練を実施すると共に、カ三大隊をして「チエンマイ」	
	三	グー」道の道路構築作業に従事せしむ	
	三	緬甸に前進の爲「ランパン」	
	三	「ケシタン」	
	三	「タカオ」	
	三	「ロイレン」	
	三	「シボー」	
	三	「マンタレー」	
	三	「ウントウ」	
	三	「ピンレグ」	
	三	道を前進し「ピンレグ」	
	三	「ワヨンゴン」	
	三	「カウカン」	
	三	周辺の警備をカ三一師	
	三	団カ五八連隊より継承し「インパール」	
	三	作戰を準備す	
	三	「ウ」号作戰、九号作戰及び次期態勢移行の爲の作戰に参加す	

196~

1901

1904

年月日	概	要
昭和 一九 九	<p>本作戰に於て、戦死一、四二四、戦傷死 九八 戦病死 五七七 生死不明、約二六九 其の他入院せるも、其の後の消息不明なるもの約三四あり 艦作戦に参加す 本作戰に於て、戦死七二 戦傷死四、戦病死 四〇六 生死不明 五八 其の他入院せるも、其の後の状況不明なるもの多数あり 軍令陸甲カ一四〇号に依り、編成改正完結 「イラワジ」河畔の会戦並に、免作戦に参加す 本作戰に於て、</p>	<p>戦死 一一一 戦傷死 一一 戦病死 六三 生死不明 七三 其の他入院せるも、其の後の消息不明なるもの多数あり 後期免作戦に参加後「モールメン」南方地区に集結 本作戰に於て、</p>
類 言 五一 三	<p>戦死 二一一 戦傷死 一一 戦病死 四〇、 生死不明 五、 負傷入院せるも其の後の消息不明なるもの約三一あり 泰國に転進「ターモアン」に集結、次期作戦を準備中終戦に到る 「ターモアン」より「バンボン」に移駐し、連合軍作業に従事する傍を自治に</p>	<p>戦死 二二 戦傷死 一 戦病死 四〇、 生死不明 五、</p>
七五	<p>本作戰に於て、戦死一、四二四、戦傷死 九八 戦病死 五七七 生死不明、約二六九 其の他入院せるも、其の後の消息不明なるもの約三四あり 艦作戦に参加す 本作戰に於て、戦死七二 戦傷死四、戦病死 四〇六 生死不明 五八 其の他入院せるも、其の後の状況不明なるもの多数あり 軍令陸甲カ一四〇号に依り、編成改正完結 「イラワジ」河畔の会戦並に、免作戦に参加す 本作戰に於て、</p>	<p>戦死 一一一 戦傷死 一一 戦病死 六三 生死不明 七三 其の他入院せるも、其の後の消息不明なるもの多数あり 後期免作戦に参加後「モールメン」南方地区に集結 本作戰に於て、</p>
八	<p>本作戰に於て、戦死一、四二四、戦傷死 九八 戦病死 五七七 生死不明、約二六九 其の他入院せるも、其の後の消息不明なるもの約三四あり 艦作戦に参加す 本作戰に於て、戦死七二 戦傷死四、戦病死 四〇六 生死不明 五八 其の他入院せるも、其の後の状況不明なるもの多数あり 軍令陸甲カ一四〇号に依り、編成改正完結 「イラワジ」河畔の会戦並に、免作戦に参加す 本作戰に於て、</p>	<p>戦死 二二 戦傷死 一 戦病死 四〇、 生死不明 五、 負傷入院せるも其の後の消息不明なるもの約三一あり 泰國に転進「ターモアン」に集結、次期作戦を準備中終戦に到る 「ターモアン」より「バンボン」に移駐し、連合軍作業に従事する傍を自治に</p>
三	<p>本作戰に於て、戦死一、四二四、戦傷死 九八 戦病死 五七七 生死不明、約二六九 其の他入院せるも、其の後の消息不明なるもの約三四あり 艦作戦に参加す 本作戰に於て、戦死七二 戦傷死四、戦病死 四〇六 生死不明 五八 其の他入院せるも、其の後の状況不明なるもの多数あり 軍令陸甲カ一四〇号に依り、編成改正完結 「イラワジ」河畔の会戦並に、免作戦に参加す 本作戰に於て、</p>	<p>戦死 二二 戦傷死 一 戦病死 四〇、 生死不明 五、 負傷入院せるも其の後の消息不明なるもの約三一あり 泰國に転進「ターモアン」に集結、次期作戦を準備中終戦に到る 「ターモアン」より「バンボン」に移駐し、連合軍作業に従事する傍を自治に</p>

1911

8011

1905

21の外ビレマ

年月日	概要
二五 六	専念す 内地帰還の為「バンボン」出発 盤谷より乗船す 浦賀港上陸 復員完結

~198~

3601

1906

第一五師團衛生隊

衛生隊長 白北光太郎

年月日	概	要
西五月八	大阪にて、第三四師團衛生隊を編成、 中支那警備	
昭二二 天二二 未二二	宜昌予南作戦に於て、 行方不明	兵一名
七二二 八二二	第一次錦江作戦に於て、 戦死	兵一名
八二二 九二二	浙赣作戦に於て、 戦死	兵一名
八二二 四二二	編成改正を行い、第一五師團の隷下に入る 中支那より緬甸に転進	
五二二 七二二 五二二	インパール作戦中、戦死（傷病）死 ミツシヨンの附近に於て、	将校一名 下士官兵 四九名
北二二 九二二 六二二	行方不明 兵一名、敵手に入りたる疑あり 次期態勢移行のため作戦中戦（傷病）死 盤作戦中戦（傷病）死	将校一名 下士官兵 一五〇名
三二二 四二二 五二二	消息不明兵 二名 イラワジ河会戦中戦（傷病）死 入院後消息不明	将校一名 下士官兵 約四〇名 下士官兵 五名

~197~

1907

年月日	略言 要 要
概	<p>「克」作戦中戦（傷病）死 下士官兵約一〇名、</p> <p>入院後、 消息不明 下士官兵 二名 後期克作戦中戦（傷病）死 持枝 一名 下士官兵約四〇名 入院後 消息不明 下士官兵 五名 「暹羅」に転進 歴代部隊長</p> <p>陸軍少佐 小川 義久 陸軍大佐 大橋 孝吉 陸軍少佐 近 北 光太郎</p> <p>部隊事情精通者</p> <p>徳島県板野郡樫養町南濱蛙子前東六〇の二 軍医大尉 小橋 正 兵庫県多紀郡村雲村下篠見二八一番地 中 尉 丸 鬼 文 平 和歌山県伊都郡笠田町二六三</p>

2000

5001

1908

年月日	概 要
	<p>兵庫 中 尉 吉見 菊男 兵庫 准 尉 大角 勇 兵庫 衛生准尉 梅田 政次</p>

~201~

1909

歩兵第五一連隊

年	月	日	概	要
昭 和 五 年	一 月	八 日	内地出発、上海上陸、爾後、中支那整備 緬甸に転進	
昭 和 三 年	三 月	三 日	第二大隊は、九号作戦中、緬甸国、カーサー果、インドウ地区に於て、将校五 下士官兵 五六戦 戦傷三一名中入院せる者一六名 入院後、不明なるもの三名	
昭 和 三 年	三 月	三 日	連隊主力(第二大隊以下同じ)は「ウ」号作戦中(以下同じ)印度「マ ンプール」王領「サレイオン」西方に於て及び同地西南二軒三六三六高地附近に 於て、将校 四名 下士官兵七八戦死、兵一生死不明 戦傷四九名中入院せ るもの二一名中三名其の後不明なり	
昭 和 三 年	四 月	五 日	印度「マンプール」王領「モルボン」「ワカン」及び同南側高地並に、其の南 側三八三三高地附近に於て、 将校九 下士官兵 九八戦死、戦傷八六名中、入院せる者八名、其の後 不明なり	
昭 和 三 年	四 月	五 日	「イムパール」北方一七軒四〇五七高地に於て、第一大隊は、将校六、	

22の外ビルマ

年月日	昭五 四四 五〇	至自 五四 上七	至自 七六 七五
概 要	<p>下士官兵二八 戦死兵一 生死不明 にして、其の後、不明なる者二名なり 戦傷六六名中入院せる者一六名</p>	<p>中隊及び射砲小隊主々は印度「マンカール」王領「マインガムホクビ」北方三料三四四九高地及び其の北方三料三五二四高地附近に於て、 下士官兵 二八戦死 戦傷二〇名中六名入院せるも、其の後不明なり 印度マンカール王領ケンタイ及び其の西南八料四〇五七高地附近に於て、 下士官兵 三九 戦死兵三 生死不明戦傷四六名中三五名入院、其の後不明大名なり</p>	<p>印度「マンカール」王領「サカント」コララック「ドンスム」附近に於て、 将校 七 下士官兵 六七戦死 生死不明 三 戦傷二二名中、入院一三名 其の後不明なる者九名なり 「イムパール」東北方二〇料四二四一高地附近に於て、中隊は、 将校 一 下士官兵 五七戦死、戦傷一五名中、入院七名 其の後不明なる者五名なり 四二四一高地北方三料高地及び其の他方六料「シヨンベル」附近に於て、 将校 二 下士官兵 七二戦死 生死不明三 戦傷八四名中入院三三名</p>

1911

3の内ビルマ

年月日	略号、細目	種別	種別
概要	<p>其の後不明なる者九名なり 第二大隊は「マンパール」を領「パレル」攻略に於て、 將校一六 下士官兵二二七戦死、生死不明四名 戦傷一二六名中一二六名 入院</p>	<p>其の後、不明なる者二三名なり 次期態勢移行のため作戦に依る転進中「マンパール」を領「ケエツパ」及び 其の東方三、五料「トバル」河、左岸並に、其の東方地域に於て、 將校二〇 下士官兵二一七戦死、生死不明一三名 戦傷五五名中、 入院一四名</p>	<p>其の後不明なる者八名なり 次期態勢移行の爲、作戦中「イムパール」東北方地区及び第二大隊の「パレル」 地区より緬甸カーサー東ウントウ地区への転進、並に、同地区附近に於ける盤 作戦中 將校四、 下士官兵一一三戦死 生死不明五九名 戦傷三八名中入院せ るもの二〇名 其の後不明なる者一四名なり、 生死不明なる者五九名中には、敵手に陥り たる者、若干あらんと思料せらる 盤作戦並に「イラワジ」河畔会議中緬甸「シエエボ」果「カベット」及び其</p>

204

1101

1912

年月日	概 要
昭 三 一 二	<p>の南カーニ科「ピンミ」附近に於て、 将校一四 下士官兵九〇戦死 生死不明四名 戦傷五六名中入院二八 名、 其の後不明なる者一一名なり 「イラワジ」河野会議中緬甸「イマンタレー」県「レンタ」南北地区に於て 将校一 下士官兵七二戦死五名 戦傷四名中入院三三名 其の後不明なる者、名あり 緬甸「イマンタレー」県「エナガ」北方六村及び同東方村「タバガイ」附近 に於て、 下士官兵一七戦死 生死不明四名 戦傷二〇名中入院一〇名 其の後不明なる者四名なり、又「メーグテラ」防衛集成大隊要員として、 派遣せし、将校四名、生死不明なり 「イマンタレー」市に於て、 将校二 下士官兵三一戦死、生死不明一三名 戦傷三九名中入院三 一名 其の後不明なる者一三名なり 緬甸「イマンタレー」県「カモック」及び其の南方地域に於て、 将校七、下士官兵四三戦死 生死不明一五名 戦傷四〇名中入院二</p>
昭 三 一 二	<p>昭 三 一 二</p>

1913

23の外ビルマ

年 月 日	概 要
至 昭 和 三 年 三 月	<p>二名 其の後不明なる者へ名なり</p> <p>緬甸「シマン」州「ウフネット」―「イエフリー」―「エンガン」―「アンパン」 「ロイカウ」西方「サウングウン」を経て「トングー」―「モーテ」道に至る、 戦進中</p> <p>下士官兵五戦死、生死不明五名 戦傷四名入院せしめたるも、其の後不明なり</p> <p>「トングー」―「モーテ」道に於て</p> <p>将校一 下士官兵三三戦死、生死不明五名 戦傷六三名中、入院三名 其の後不明なる者四名なり</p> <p>「モーテ」道より「ゲマピエー」―「パパン」―「カママウン」―「モールメン」 に至る、戦進中</p> <p>将校一、兵一戦死 生死不明三名、戦傷一名入院せしめたるも、其の後不明なり</p> <p>緬甸より戦進し、泰国、カンチマナナフリ―渠ワンボ―着</p> <p>終戦</p>
至 昭 和 三 年 三 月	<p>「シヤム」国バンボン市郊外オイロン集結</p>
至 昭 和 三 年 三 月	
至 昭 和 三 年 三 月	

206

1914

207

年月日	概	要
	<p>歴代部隊長</p> <p>大佐 池田廉二</p> <p>“ 斎藤春麿</p> <p>“ 尾本嘉三雄</p> <p>“ 折田一雄</p> <p>中佐 上山淳</p> <p>“ 山内清之</p> <p>部隊事情通告</p> <p>京都府船井郡高原村大字豊田小字谷五五 陸軍大尉 細見一雄</p> <p>広島県尾道勤土堂町三一四 熊野弘</p> <p>東京都世田谷区羽根木町一七六八 斎藤皓</p> <p>京都府久世郡宇治町大字宇治町小字一 陸軍中尉 坂本順三</p> <p>奈良県高市郡高市村大字細川二六 陸軍少尉 山下正雄</p>	

207

1915

	年 月 日
<p style="text-align: right;"> 宮城県仙台市小田原幸通二七 陸軍少佐 角田寅吉 </p>	<p style="text-align: center;">櫛</p> <p style="text-align: center;">要</p>

rap

1916

その内ピルマ

歩兵才六七連隊

才一五師団歩兵才六七連隊長

灌口一郎

年月日	概要
昭三 四	編成完結
七	軍旗拝授
八	中支那派遣の為大阪港出帆
八 二	上海上陸
九	同地附近整備以後、南京に前進、主力(才一大隊欠)を南京に一部(才一大隊基幹)を揚州に配置し、南京附近の討伐及び警備に任ず
二	句容県内師団合同討伐に参加(除く才一大隊)
二	蕪湖地区内(宣城)討に参加(除く才一大隊)
三	才三大隊を高郵支隊長の指揮に入られて、武漢攻路戦に参加せしむ
三	六合並に天長泉城攻略す
四	高郵作戦を行う
五	郎溪溧陽作戦に参加す(除く才一大隊)
五	春李皖南作戦及び宣城作戦に参加す
五	才二次竹鎮集討伐を実施す

207

8161

1917

年月日	概	要
五、九	五、九	<p>弟二大隊及び弟三大隊の一部をして、赤山周辺地区の討伐を実施せしむ</p> <p>弟三大隊を弟一七師団歩兵團長の指揮に入らしめ、宜昌作戦に参加せしむ</p> <p>豫駐地に帰還す</p>
五、九	五、九	<p>三河作戦に参加す</p> <p>弟二大隊を秋季、磨盤作戦に参加せしむ</p>
五、九	五、九	<p>江南作戦に参加す</p> <p>弟二大隊を弟一六師団長の指揮に入らしめ、北部瀋陽作戦に参加せしむ</p>
五、九	五、九	<p>漢水作戦に参加す（除く弟二大隊）</p>
五、九	五、九	<p>弟二大隊をして、江浦地区進駐討伐を実施す</p> <p>予南作戦に参加す（除く弟二大隊）</p>
五、九	五、九	<p>冀湖南方作戦に参加以後、冀東に位置し、江北地区の警備に任ず</p> <p>江岸作戦に参加す</p>
五、九	五、九	<p>弟一大隊及び弟二大隊の一部を以て、台山附近の討伐を実施す</p> <p>弟一大隊及び弟二大隊の一部を以て、皖江作戦に参加せしむ</p>
五、九	五、九	<p>蘇州附近清郷工作参加の爲、弟二大隊を師団直轄たらしめ、主力を以て、冀東</p> <p>出発</p> <p>江陰に転移す、江陰に在りて、同地附近の警備並に清郷工作に参加以後、江蘇</p> <p>省松江に転移す</p>

カウトニシマ

年月日	概
要	<p>カニ大隊を武漢方面に派遣、カニ次長沙作戦 京漢沿線地区掃蕩作戦及び武灘周辺肅正討伐に参加せしむ 南京に帰還す</p> <p>カニ大隊及びカニ三大隊の主力を折嶺作戦に参加せしむ 松江に在りて、同地附近の警備並に清郷工作に参加したる後、安徽省巢県に転 移以後、同地附近の警備</p> <p>本年度作戦討伐に依る戦死一〇九、戦病死五〇、負傷八九 巢湖南岸地区討伐を實施す</p> <p>軍令陸甲カニニ号に依る編成改正、完結</p> <p>南方派遣の爲、南京に集約</p> <p>上海に集結後吳淞港出帆</p> <p>仏印面貢上陸、同地に一時駐留</p> <p>面貢出発、盤谷に前進</p> <p>北条「チエンマイ」に前進</p> <p>以後、「チエンマイ」「トング」道構築作業に従事</p> <p>本年度作戦討伐に依り、戦死一七、戦病死七二、戦傷一八、海没に依る死傷一 行方不明六あり</p> <p>緬甸に前進の爲「チエンマイ」出発</p>

211

1919

年月日	概	要
昭和五二 五 九三	緬甸に進出 「イムパール」作戦及び次期態勢移行の爲の作戦に参加 戦死 八八三 戦病死 六六一 行方不明約二八九、其の他買傷 入院せるも其の後の状況不明なるもの多数あり、又 若干名敵手に入りたる疑あり	盤作戦に参加 戦死 五回 戦病死 三〇回 行方不明二九、其の他買傷入院せるも、其の後の状況不明なるもの多数あり、又、若干名は敵手に入りたる疑あるも、不明なり
昭和五二 四 一	「イラワジ」河畔会戦に参加 戦死 一九二 戦病死 一一回 行方不明 六回、其の他買傷 入院せるも、其の後の状況不明なるもの多数あり	克作戦に参加 戦死 七二 戦病死 一回 行方不明 七九 其の他買傷入院せるも其の後の状況不明なるもの多数あり
昭和五二 七 五	後期克作戦に参加後「モーメン」南方地区に集結、作戦中 戦死 二九 戦病死 五八 行方不明 二九 其の他買傷入院せるも其の後の状況不明なるもの相当あり	

~212~

1920

28の内

年月日	概要
昭五八	泰国へ転進の為「モールメン」出発 泰国「パンポン」に転進 以後 同地に位置す 歴代連隊長名
	大佐
	大熊貞雄
	大佐
	大竹修
	大佐
	鈴木啓久
	大佐
	伊沢寅次
	大佐
	瀧口一郎
	連隊事情精通者
	東京都北多摩郡沙川村三三〇番地
	陸軍少佐 村田繁治
	千葉県銚子市春日町四六番地
	陸軍大尉 山崎忠信
	大分県富市北墨田一六六の二
	陸軍准尉 高山修一
	千葉県君津郡鎌足村矢那八五九番地
	陸軍准尉 坂田璋

~23~

1921

輜重兵才一五連隊部隊

連隊長 小川 義 弘

年	月	日	概	要
昭三	四	一〇	軍令陸甲才二一号に依り、本部並に自動車中隊は、名白屋輜重兵才三連隊輜馬	
	八	六	中隊は、東京輜重兵才一連隊に於て、編成完結	
	八	八	上海上陸、爾後、本部並に自動車中隊は、陸路輜馬中隊は、鉄道輸送に依り	
	八	一三	南京に前進	
	八	一三	南京到着	
	八	一三	南京附近警備中	
	八	一三	東進基附近に於て、	
			戦死村校 一名	准士官兵 二三名
			盛家橋附近に於て、	
			戦死兵 一名	
			南京に於て、	戦死兵 四八名
			武漢攻略戦参加	戦病死兵 二名
			才一高淳依戦参加	戦死兵 一名
			高郵作戦参加	

5
7
ト
2
ノ
2

~214~

1922

年	月	日	概	要
昭和	五	四	印度に転進	
昭和	五	七	「ウ」号作戦参加	
昭和	五	七	緬甸に転進	
昭和	五	七	次期態勢移行の爲の作戦参加	
昭和	五	七	盤作戦参加	
昭和	五	二	軍令陸甲カ一四〇号に依る編成改正完結	
昭和	五	二	本部カ一中隊（輓馬）カ二中隊（自動車）	臨時カ二中隊（輓馬）を編成す
昭和	五	二	「イ」ラワジ、河野並に「メ」クテトラ	附近の会戦参加
昭和	五	二	克作戦参加	
昭和	五	二	後期克作戦参加	
昭和	五	二	泰国に転進、爾後「バンポン」附近駐留	
昭和	五	二	終戦の詔勅下令、爾後、泰国「バンポン」戦業務	
昭和	五	二	義参カ四大号に依り、カ一八方面軍野戦自動車廠「バンポン」	支廠を編入
昭和	五	二	部隊材料廠を編成	
昭和	五	二	義参カ三〇号に依り、独立自動車カ二七四中隊特設自動車カ一四中隊を編入	
昭和	五	二	臨時カ四中隊、臨時カ五中隊を編成	
昭和	五	二	内地帰還の爲、泰国バンポン出発	
昭和	五	二	盤谷出帆（速州丸）	

~25~

1923

6
の
シ
レ
ク

年月日	概	要
昭二 六二	浦賀港入港	
六七	浦賀上陸	
六五	復員完結	
	歴代部隊長	
	陸軍大佐	横山 伊三郎
	陸軍中佐	中村 勇次郎
	陸軍中佐	小川 義弘
	部隊事情精通者	
	群馬県利根郡桃野村大字小川和名中 石坂芳次方	
	(東京都本郷区青木町三丁目六番地)	
	陸軍大尉	石坂 岩雄
	山梨県甲府市穴切町四七〇	
	陸軍中尉	浅川 清次

第一五師団病馬廠部隊

大尉 瀬川 忠直

年月日	概要	要
昭和二年三月二日	編成	編成地 旭川
昭和二年三月五日	南京上陸	兵出身 北海道
昭和二年三月五日	第一五師団の指揮に入る	全国
昭和二年三月五日	南京に在りて、馬衛生業務に従事す	
昭和二年三月五日	本期中、清作戦に参加す	
昭和二年三月五日	上海に駐留し、馬衛生業務に従事す	
昭和二年三月五日	緬甸派遣の爲の輸送業務に従事す	
昭和二年三月五日	泰國に駐留し、軍用動物衛生業務に従事す	
昭和二年三月五日	緬甸に在りて、軍用の動物衛生並に輸送業務に従事、本期中諸作戦に参加す	
昭和二年三月五日	指揮隷属関係及び其の変遷の概要	
昭和二年三月五日	第一五師団に隷属す	
昭和二年三月五日	歩兵第六〇連隊長の指揮下に入る	
昭和二年三月五日	歩兵第六七連隊長の指揮下に入る	

217

1925

年月日	概	要
昭五 五 五	参加せる主要なる作戦（戦闘）概要	損耗死傷 給 衛 生
昭五 五 三	宣城作戦参加	戦死 一
昭五 五 三	江南作戦参加	戦傷 三
昭五 五 二	浙東作戦参加	戦死 一
昭五 五 二	皖浙作戦参加	戦傷 三
昭五 五 一	浙贛作戦参加	戦死 一
昭五 七 五	次期態勢行のための作戦	戦死 一
昭五 七 三	盤作戦参加	戦死 一
昭五 七 二	「イラワザ」河時の会戦、並に「メロクテラ」	戦死 一
昭五 七 一	附近の会戦	戦死 一
昭五 七 〇	「克」作戦	戦死 一
昭五 七 〇	後期克作戦参加	戦死 一

よりト...

年月日	
概	<p>昭五 八 天 二 五 八 七 三 三 八 五 三 六 二 六 一 三</p> <p>終戦より帰還迄の行動 緬甸よりシマム国に転進、同時に終戦となる 泰緬甸国境通過 イバンボンに集結 連合軍の労務に従事す オーハ方面軍各病馬廠及び矢巻廠を一五師団病馬廠に転属せしめる 盤谷出発 浦賀上陸 復員解隊す</p>
要	

野砲兵中二連隊部隊

連隊長 藤岡 勇

年月日	概	要
昭和五年八月六日	大阪港出帆	
八月二日	中支南京到着、嗣来、南京附近整備	
九月九日	秋李磨盤山作戦に参加	
九月九日	宣城作戦に参加	
十月三日	太湖西方作戦に参加	
十月三日	浙東作戦に参加	
十月三日	編制改正に依りニヶ大隊編成となる	
十月六日	皖浙作戦に参加	
十月九日	浙贛作戦	
十月九日	編成改正に依り三ヶ大隊に改編	
十月十四日	連隊は中支より前進	
十月十八日	仏印西貢に上陸、更に上陸、更に	
十月二十三日	緬甸に転進せり	
十月二十五日	イウー号作戦に参加中	戦死 一七四
	行方不明一名	戦傷死 一九
		戦病死 五五五

功の内ビルマ

220

1928

1928

年月日	概	要
昭和九、三	盤作戦に参加中	
二、一	戦死 九 戦傷死 一 戦病 二七二	
四、二七	編成改正に依り、ニヶ大隊に改編 「イシワジ」部隊の会戦中戦死 一三〇 戦傷死 二 戦病死 八八 行方不明 一九	
五、三〇	克作戦参加中 戦死 五五 戦病死 七〇 行方不明 一名	
七、三	後期克作戦、戦死 一 戦傷死 四 戦病死 六八名 緬甸より転進	
八、天	泰国「バンボン」に駐留せり 歴代部隊長名	
	陸軍大佐 山崎 清次 陸軍大佐 瀬戸口 岩次郎 陸軍大佐 藤 岡 勇	
	部隊事情精通者 岩手県利根郡土沢町大字安表才二〇地割一〇四番の二 陸軍少佐 多田 源 孝	

第三師團司令部

年月日	概	要
五、五、五 (五六局)	盤谷に於て、編成	
六、五、五	師団大部の編成は、完結するも、一部は、尚「仏印」「マライ」附近に在り、依つて、司令部は、 迄盤谷に位置し、エが指導に当り、 防衛及び転進 北緬甸への転進	
七、五、五 七、五、五 七、五、五	北緬甸の防衛並に「ウ」号作戦の爲の展開 「ベグ」(七月初〜八月) 「キヌ」 九月 「サカン」 二月末 「ウントウ」 一〇月	
七、五、五 七、五、五 七、五、五	緬甸進駐に伴い逐次、部隊を「ベグ」「イマングレー」「シエボ」を経て、 「チンドウイン」河東側北緬に転進し、該地の防衛に任ぜり 「ゴヒマ」進攻作戦の準備を毎々施し、遂次、渡河進攻の爲「ナ」河上流「木 マリン」附近に推進す	

シラカシム

年月日	概要
昭和 三三	イウ 号作戦
三 五	トナマへ(渡河前) 印緬国境「モーレ」通過(四月三日)
四 六	「コヒマ」 東南「チマカバマ」 四月八日「六日初旬」 「印緬国境「フミネ」 通過(七月初旬) 「シツタン」(八月中、下旬)
三 五	より「チ」河を渡河「アラカン」 山系を踏破し
四 六	「ゴヒマ」に進攻す
六 初	「ゴヒマ」附近を撤退し「ウクルル」 「フミネ」を経て、「シツタン」附近に 集結
三 五	同地附近の防衛及び收容作戦に任ず (「イウ」号作戦経過要図参照)
三 五	盤作戦
三 五	「シエボ」(「九」上旬)
三 五	「サガイン」(「二」中旬)
三 五	ASD 33Dの「イ」河東南岸地区へ転進を收容、 掩護の爲「カンハル」「シエボ」
三 五	「サガイン」附近に於て作戦す
三 五	「イラフジ」河 河畔の会戦
三 五	「サガイン」(三月中旬迄)
三 五	「イ」河南岸「パンイウ」に移動

年月日	略 五、三〇	至 五、三
概	<p>「キマウセ」(三月下旬) 整作線に引続き「イ」河々畔「サガイン」より「ミシム」附近に至る間に陣地を占領し、敵の進攻を拒止す 逐次転進「キマウセ」附近に至る 克作戦</p>	<p>「ペカン」 五月中旬 「パポン」(「マルタバン」) 附近 五月末 「タトン」 「マルタバン」 附近に至る転進 「サルウイン」 河孟防衛作戦 「パウ」 五月下旬より終戦時迄 「タトン」 「マルタバン」 間及び「サルウイン」 河岸地区に於て、海正面及び空地に対する防衛並に築城等次期作戦を準備す 「チ」河 「イ」河 及び「サ」河は、夫々「チンドウイン」河及び「イラワ」河「サルウイン」河の略称なり 作戦転進等に就ては、尚、別紙「作戦経過要図参照」</p>

225

1933